

10. 環境マネジメントシステム（ISO14001）について

平成17年1月11日の市町村合併前、旧亀山市は全部署、旧関町は本庁舎を含む5施設でISO14001を認証取得し、それぞれ独自の環境保全活動を行ってきました。合併後もそれまでの活動を継続し、適用範囲を従来の施設以外に拡大して、新市の全部署で再度認証取得する予定です。

施策としては、地球温暖化防止につながる紙や電気などの使用量を削減するエコオフィス活動をベースに、保育園・幼稚園・小中学校での環境教育、消防署の防火診断による火災発生時の環境負荷の低減、荒廃した里山を復旧し環境学習の拠点を創出する環境再生事業など市が市民や事業者の環境関連活動に大きな影響を及ぼすことのできるものを推進・検証・見直しして、継続的に改善を図っています。

今後は、亀山市環境基本条例に基づいて平成17年3月に策定した「亀山市環境基本計画」の施策と現状の施策との整合を図りながら市、市民、事業者の連携と協働のもと、亀山市総合環境研究センターの提言を踏まえ、推進していきます。

亀山市が、行政、市民、学識経験者、企業などの各主体の連携・協働のもと、市の自然的、社会的特性に応じた施策を策定し、実施するために、また、環境諸問題に取り組んでいくために、時代を先取る有効な環境政策を研究、立案することを目的として、平成17年1月11日に設立した組織

(1) エネルギー・廃棄物量の推移

平成15年度までは概ね削減できていましたが、合併に伴う業務量の増加により使用量が増加しました。

特に増加量が多いものの原因は次のとおりです。

【施設軽油使用量】

総合環境センターで行っている、過去に埋め立てたごみを掘り起こし、篩い処理後に溶融処理する「掘り起こし事業」の事業量の増加により、使用する篩機（動力源：発電機）の燃料である軽油の使用量も増加しています。

【廃棄物処理量】

施設軽油使用量の増加原因と同じく、「掘り起こし事業」の事業量の増加により、廃棄物の処理量も増加しています。

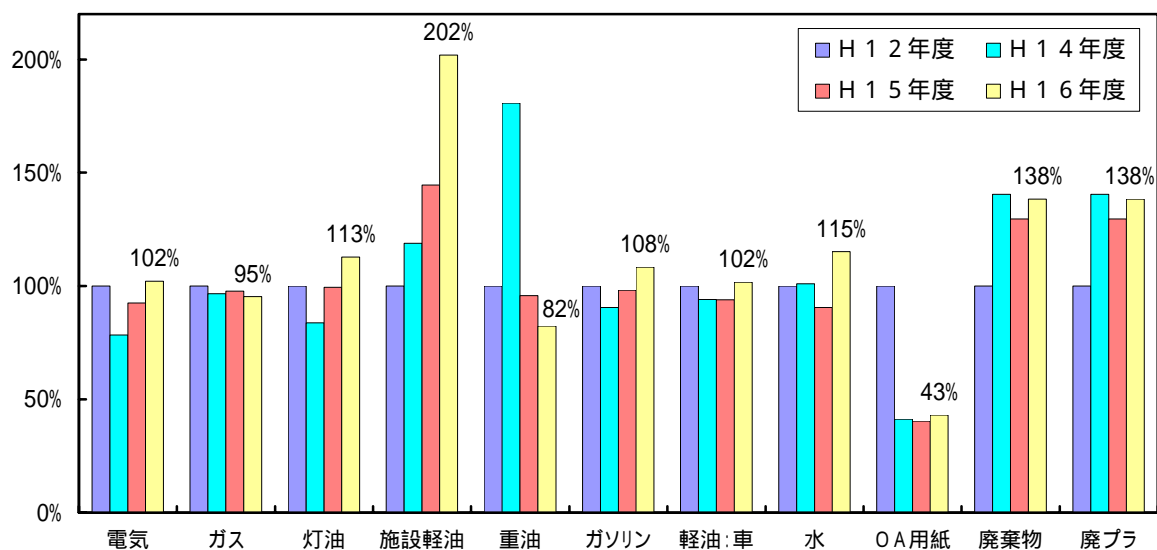


図 1 0 - 1 年度別使用量比較表

このグラフは平成 1 2 年度を基準 (1 0 0 %) にして、その使用量の差を見るために作成したものです。使用量は、旧関町のデータがないため、旧亀山市の数値を比較しています。

(2) 温室効果ガス排出量 (C O ₂ 換算)

温室効果ガスの排出量も事業量の増加に伴い、年々増加しています。

平成 1 2 年度 C O ₂ 排出量 : 14,313,681 kg、平成 1 6 年度 C O ₂ 排出量 : 15,961,082 kg (1 2 年度比 11.5% 増)

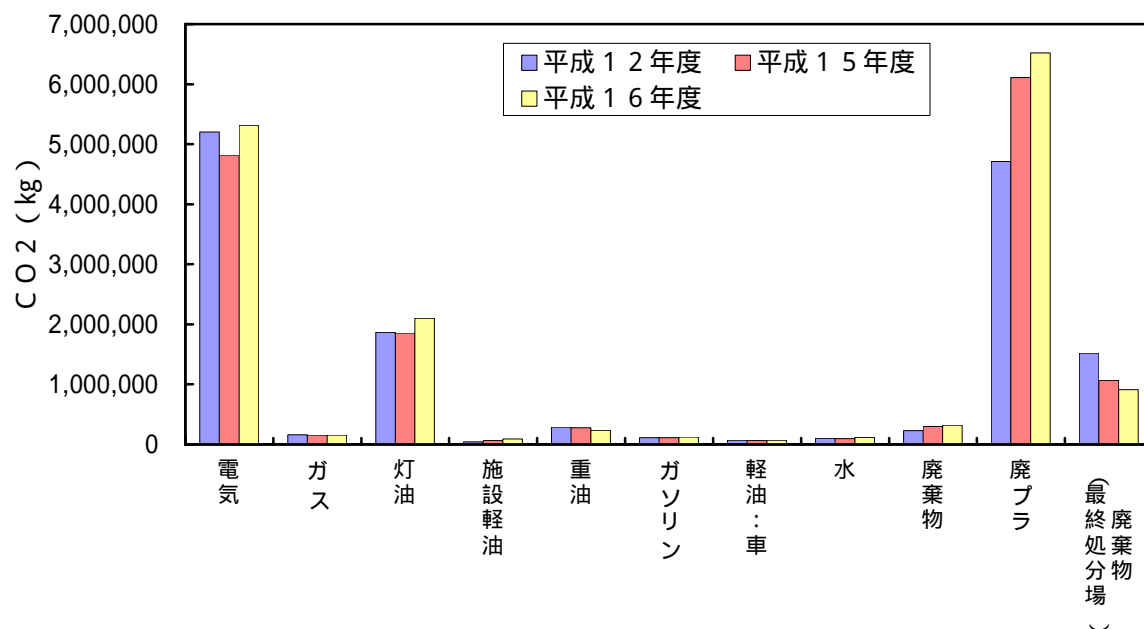


図 1 0 - 2 項目別温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量も、旧関町のデータがないため、旧亀山市の数値を比較しています。